

式辞

(まずは、球技大会お疲れ様でした。楽しそうにしている皆さんの様子を拝見し、安心しました。)

さて、令和3年丑年が終わり新しい年が始まります。その節目となる2学期終業式の今日。まずは、節目毎にお願いしている三つのことを確認します。

- なぜ、学ぶのか?・なぜ、学ばなければならないのか?について、考えましたか?
- 夢を持ち、一日一日を大切に積み重ね継続できたでしょうか?
- 自分の命を大切にし、同じように他人の命を大切にすることができましたか?

もう、皆さんの心の中には刻まれていますよね。

今日は、このことについて、三つお話をします。

一つ目は、なぜ学ぶのか?について深く関係する「人権と校則」についてです。

今、生徒指導部を通じて校則の見直しについて皆さんから意見を聞いております。

そこで考えてほしいのは、校則は何のためにあるのか?ということ。いろいろな考えがありますが、校則制定の理由の一つは、学校は目的集団ではあるが、多様な価値観を持った生徒教職員が団体生活を送るために必要な生活上の守らなければならないルールと考えることができます。

具体的には、本校は校訓に掲げた理念を目的に、生徒がGP(柏葉プライド)に掲げた能力を卒業までに身につけさせることを目標としています。そして、お互いに価値観の違いや対立する考えがあることを認めたくえその目的達成のために優先すべきこと、合意したルールを校則として定めています。

しかし、これまでの校則がその目的達成に向けて常に合理的なものであるかといえば、必ずしもそうではありませんし、考え方によっては国際的な人権の価値観を侵害するものもあつたかもしれません。(持ち物検査をしたり、地毛証明書を提出させたりなど)

時代により価値観や目的が変化します。ですから、検証する必要があるし、ここで過ごす、一番のステークホルダー(利害関係者)である生徒みなさんと教職員の意見を聞く必要があります。そこでみなさんにアンケートをお願いしたので

それから、皆さんに考えてほしいことがあります。それは、皆さんの意見だけで校則は決められないということです。

今、七戸高校には、298名の生徒と代行員をいれて49名の教職員。公営塾の先生3名。合計350名の人間が暮らしています。これだけの人間がいますので、当然、利害(損得)の違いが生まれます。いわば小さな国家です。

例えば、髪型についての考え方を一つとっても簡単に一致するものではありません。先生方の中でも考え方が異なります。皆さんにはご家族がいます。上北郡には約10万人の方々がか暮らしています。

令和4年に卒業する中学生は1,585人です。それぞれの生徒、家庭に考え方が違うだろうことが容易に想像できます。地域の方々の信頼を失ったら、約100年の伝統がある本校といえども、存続が難しくなります。

ただ、一方で日本人はあまりにも同じであることを強調しすぎてきたくらいがあります。肌色という言葉は深く考えなかったり、髪の毛の色や縮毛に対するこだわりをもったりするなど。

明治維新以来、我が国は、国際化、グローバル化を叫んできました。そして、みんな違ってみんないいといいつつも同調圧力が強い社会をつくってきました。

クラスでちょっと目立つ個性や価値観を持った生徒がいると、からかったり、いじめたりするのは、これまでの学校教育の在り方と関係するのかもしれませんが。

ですから、校則の在り方については常に議論し続ける必要がありますし、時に、大きく見直すことも必要です。

ちなみに、来年度からは、性によらない名簿を採用します。今日の集会のように。男子優先の考え方は捨てます。出席簿等を変更します。制服は男女の別をなくします。とりあえずは、今ある制服を性によらず選択可能とします。今後可能であれば、より選択の幅を広げた制服とする準備を進めます。携帯電話については、使用のためのルール作りをしてもらいます。その結果においては校内での使用も考えられます。体育館の昼休みの利用についてもルールをつくり許可していきます。

どうしたら目的達成に向け、豊かな学校生活ができるのか、教職員と生徒が対等の目線で考えてもらいます。そして、地域に認められる校則にしていくことを校長として約束します。

ですから、こんなこと言っても無理と考えず、あるべき姿を真剣に考えてください。意見を表明しないと考え方の違いも見えてきません。もっともっと自由な校則でありながら、地域に信頼される人気校が世の中にはたくさんあります。調べてみてください。

二つ目に、自分の命を大切にし、同じように他人の命を大切にすることについて考えましょう。

ここでいう「命」を「生・生きること・生き方・生活」などの言葉に換換えてみましょう。自分の生き方を大切にし、同じように他人の生き方を大切にすること。と。

さて、どうでしょうか？皆さんは、自分の生き方を大切にしていますか？

「劣等コンプレックスに陥った人は成功のために努力するよりは、失敗を避けるほうに動く。困難を前に立ち尽くし、さらには、逃げる」

「不安だから、外出できないのではない。外出したくないから、不安をつくりだしているのであって。「外出しない」という目的が先にあるのだ」

というアルフレッド・アドラーの言葉があります。

前回の集会ではこんな言葉も紹介しました。「苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。」(ウィリアム・ジェームズ)

対人関係から逃げたり、困難から逃げたり、うまくいかないことを友達や周囲や社会のせいにしてみたり。

ちなみに、講習やテストや部活からも逃げている人はいませんか？繰り返しますが、自分の命を大切にすることは、自分の生き方を大切にすることです。

また、自分の生き方にまっすぐ向き合わない人・困難から逃げる人は、往々にして、人をからかったり、揶揄したり、いじめたりすることがみられます。

そんな、自分自身に対して恥ずかしい行いをしている生徒はいませんか？

それらは、自分の生き方・自分の命を大切にしていると言えるのでしょうか？そんな人は、他人のことを思いやり、生き方を認め、尊重し、大切にすることなど、決してできるものではありません。よくよく考えてください。

なお、からかったり、人の心を傷つけたりする行為を「いじめ」といってごまかしてはいけません。それは、名誉棄損罪であり、傷害罪です。14歳以上の皆さんは、刑事責任を負わなければなりません。このことだけは知っておいてください。いいですね「いじめ」は犯罪です。

最後に、小さいことの積み重ねについてお話しします。

野球選手、イチローさんの言葉で「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行く、ただ一つの道」という有名なフレーズがあります。これはメジャーリーグ年間安打記録を破った際の記者会見でのこと。

イチロー選手ならではの名言であり。すべての人にあてはまる大切な言葉です。特に注目してほしいのは、小さなことを積み重ねることが、ただ一つの道だと言っていることなのです。

一学期始業式の4月8日から今日で236日。始業式では千葉で医師を務めている教え子を例にあげて1日15分。自分だけの勉強をしてほしいというお話をしました。覚えていますか？あれから236日。

1日15分もあれば、英単語だったら10個くらいは、反復しながら覚えられます。休まずにやっていたら、2360個。新たな英単語を覚えています。2年生ならいままで601日=6010個、3年生は、966日=9660個。単語量だけだったら、超有名大学の合格レベルをはるかに超えています。

いやいや忘れるでしょう！という人もいますが、そんなことはありません。

毎日継続して、語彙量が増えてくると、実は、新しい言葉を簡単に覚えることができるようになります。前回、お話しした通り。人間の脳の神経はドーパミンを出し、ニューロンと呼ばれる神経細胞がシナプスを介してつながり、反復と継続といろいろな経験により、強化されてどんどん成長するからです。このシナプスの変化を、『シナプスの可塑性』ともいいます。これは、野球選手がバッティングの技術を体得するのと同じことです。

ただし、脳は、楽をしようとしみますので、徐々に負荷を強める必要がありますが……。それにしても、何か一つのことを休まずに正しく継続したら、思いがけなく遠くの世界へ行くことができるということ。逆に何かを成し遂げようと思ったら、小さいことを継続するしかないということなのです。

今からでも十分間に合います。

私は、前回、ウォルター・バジヨットの次の言葉を紹介しました。「人生における大きな喜びは、『君にはできない』と世間がいうことをやることだ。」

わたしは、この七戸高校のブランド力をこの地域で一番にできると確信をもって思っています。皆さんと一緒に、そして、公営塾の皆さんと一緒に、『君にはできない』と世間がいうことをやってのけたいと思います。

実現のための条件は、たった二つです。教職員と生徒の皆さんが「できる」と本気で信じること。

そして、教職員と生徒の皆さんが、たった15分でいいから自分の夢に向かって具体的に努力を継続すること。

たったそれだけが条件です。

いいですね。あなたたちは、なんにでもなれるし、何でもできます。ほんの小さな努力の継続で、世間が想像もできないことをやり遂げ、「あっ」と言わせましょう。

皆さんのこれからの具体的な行動を期待して二学期終業式、そして令和3年の最後の挨拶とします。

令和3年12月23日

青森県立七戸高等学校
校長 森田 勝博